

7. 生物多様性について

概要

生物多様性というコトバはよく聞きますが、どういう意味でしょうか。ある地域に、「いろいろな種類の生物がいること」だけではありません。「たくさん数がいる」だけでもありません。「いろいろな生物が多種多数いて、それらが適切なバランスを保って共存共栄している」という意味合いも含みます。平成4年（1992年）生物の多様性に関する条約（略称：生物多様性条約）が締結されて以後、とくに有名になりました。

緑被率から見た生物多様性の変化

生物多様性について、吹田市内の植物分布から見てみましょう。

緑被率はこの10年間で、18.8%から18.9%に0.1%増加しました。植物の生えている土地の面積が増えたことになります。でも、以前に比べてシイ林やアカマツ林、各種草地などいろいろな植物が生えている割合が減って、それ以外の“常緑落葉混交林”や“タケと樹木の混交林”などの「特定の林や草地」の面積が増えました。

植物が変わると昆虫や鳥やその他の動物も変わります。全体として、吹田市内の生物多様性は小さくなり、単純化してきてることになります。

なお、緑被率は、13~14ページの現存相観植生図をもとに、凡例（右図）の「K裸地」と「L開放水面」を除いた面積をGISで計算し、それを合計して求めました。グラフ（下図）はその内訳です。

凡 例	
A常緑広葉樹林	E落葉針葉樹林
A1クスノキ林	E1ヌマスギ・メタセコイア林
A2イ林	E2その他の針葉樹林
A3アラカシ林	F竹林
A4その他の常緑広葉樹林	F1竹林
B常緑針葉樹林	F2タケ・広葉樹混交林
B1クロマツ林	F3タケ・針葉樹混交林
B2アカマツ林	F4タケ・針葉広葉樹混交林
B3スギ・ヒノキ林	G草地
B4その他の常緑針葉樹林	G1シバ地
C常緑落葉混交林	G2ネザサ草地
C1アカマツ・コナラ林	G3低茎草本草地
C2常緑針葉・落葉針葉混交林	G4高茎草本草地
C3コナラ・アラカシ林	G5ヨシ原
C4その他の常緑落葉混交林	G6ガマ草地
D落葉広葉樹林	G7その他の草地
D0その他の落葉広葉樹林	H浮遊植物
D1コナラ・アベマキ林	Iマント群落
D2サクラ林	その他
D3ケヤキ林	J1畑地
D4ボプラ林	J2水田
D5ハリエンジュウ林	J3果樹園
D6プラタナス林	J4庭園
D7ツウウ林	K裸地
D8トウカエデ林	L開放水面
D9エノキ・ムクノキ林	

緑被面積の変化

